

# 自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 29, No. 1 神奈川県立生命の星・地球博物館 Mar. 2023



## クロフジツボ *Tetracita japonica* (Pilsbry, 1916)

神奈川県三浦市三崎町小網代  
油壺荒井浜海岸  
2017年4月29日 佐藤武宏 撮影

さとう たけひろ  
佐藤 武宏 (学芸員)

クロフジツボ *Tetracita japonica* (Pilsbry, 1916) は本州から八重山諸島の海岸でもっとも普通にみられるフジツボです。「藤壺」や「富士壺」と宛て字で書かれるように、富士山のような円錐形で、直径5 cmに達する殻を持っています。

硬い殻を持つフジツボは貝類であると大昔は考えられていたのですが、エビやカニなどと同様にノープリウス幼生期を持つことから甲殻類であることが現在ではわかっています。プランクトンであるノープリウス幼生は波まかせにあら

こちらへ移動した後、やがて変態してキブリス幼生となります。キブリス幼生は触角を使って“なかまのにおい”を感じ取ると、その近くに着底し、付着し、変態して、フジツボとしての一生動かない生活を始めます。

一生動かないクロフジツボにとって、付着場所をどこに決めるのかは一世一代の大勝負です。隣の個体の近くがいいのか、遠くがいいのか、どちらがいいのかその答えがわかりますか？

答えは7ページへ→